

【運営方針3】開かれた農大づくり

【評価基準】 A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】地域と連携した活動等による情報発信					
評価項目	評価目標	具体的方策と指標・基準等	取組状況	自己評価	次年度に向けた改善策
1	農業教育機関との交流推進	<p>① 高大連携活動の実施【充実】 農業高校生の農業に対する興味や意欲を促進するため、農業関係高校等の生徒や教員を本校に招き、各学科の学習内容や学校生活、進路等について紹介するキャンパスツアーを実施するとともに、農業クラブ活動におけるプロジェクト発表会や意見発表会で助言などを行う。また、イベント等で、農業高校と合同の販売ブース設置による販売実習に取り組む。 東北農林専門職大学の開学に伴い、山形大学と各農業高校等と新たな枠組みで高大連携協定を結び、高校と大学の連携を密にした高大の農業教育の充実を図る。</p> <p>② 研究及び技術に関する情報提供【継続】 農業高校等の学生が本校に來校し、卒業研究発表に接することにより、農業高校プロジェクト活動を支援する。 また、高校生の林業に対する理解を促進するため、林業に関する出前授業を実施し、森林整備や刈払機、チェーンソーの安全操作等を指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業高校のキャンパスツアーは、4校合計172名の生徒を迎えた。4校中2校が1年生で、本校に対する理解が高まった。</li> <li>県高校農業クラブ連盟の意見発表会の審査(6/19)やプロジェクト発表会の審査(7/9)に職員を派遣し、助言等を行った。</li> <li>「農大祭」において、各高校に出張販売を呼びかけたところ、4校から参加いただくことで、参加高校との相互理解と、農大祭の賑わい創出に繋がった。</li> <li>果樹のせん定講習会(りんご)に、1校(新庄神室産業高校)の指導職員の参加を得た。新庄養護学校と連携し、同校生5名の作業実習体験を受け入れ、一緒に作業を行う中で適宜アドバイス等を行った。(6学科・2コース:7/17、9/4、10/30、1/21、2/19)</li> <li>各農業高校等6校と専門職大学及び農林大学校との連携と協力に関する新たな協定が9月3日に締結された。</li> <li>(専門職大学キャリアサポート・研修センターが主催し、乳製品加工「チーズ作り」の農産加工研修を開催し、農業高校6校からの指導職員の参加を得た。)</li> </ul> <p>* キャンパスツアー受入、農業高校プロジェクト発表会参加、農大祭での合同販売に加え、剪定講習会・農産加工研修会へ職員参加を実施でき、高大連携協定を締結し連携活動を行ったことから、「B」評価とする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業高校との連携強化推進会議を開催し、それぞれの事業の計画及び実績を検討する中で、各高校の意向を確認しながら取り組んでおり、次年度以降も引き続き、本校が進路選択の一つとなるよう各種取組みを実施する。</li> <li>専門職大学に加え、新たに高大連携協定が締結されたことから、専門職大学と連携しながら、高大連携の推進強化を図る。</li> <li>「地域協働研究プロジェクト」発表会に農業高校のリモート参加に取り組む。</li> </ul> <p>・ 農業高校側から、本校卒業論文発表会の参加に対する希望が多く寄せられており、今後も会場参加とリモート参加に取り組んでいく。</p>
2	地域と連携した課題解決に向けたプロジェクト活動の実施	<p>① 「地域協働研究プロジェクト」の実施【継続】 各学科が主体となって「地域協働研究」に取組み、専攻分野における課題を調査し、関係団体等と連携しながら、農林大の栽培や農産加工技術の強みを活かした課題解決に向けた地域支援活動を行う。 【実施テーマ】 (稲作経営学科) 地域の未利用資源活用プロジェクト (果樹経営学科) 最上さくらんぼの生産振興プロジェクト (野菜・花き経営学科(野菜コース)) 地域資源を活用した野菜生産プロジェクト (野菜・花き経営学科(花きコース)) ～花を身近に～ 最上の花き強化プロジェクト (畜産経営学科) 自給飼料多給による和牛肉生産プロジェクト (農産加工経営学科) 地域特産物を活用した加工品開発プロジェクト (林業経営学科) 新庄神室産業高等学校と連携した若手林業者育成プロジェクト 目指せ、スペシャリスト!</p> <p>② 地域と連携した取組み数:3課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学科の1学年学生が各々の学習内容を生かし、以下の連携先と地域協働研究プロジェクトに取組んだ。</li> <li>＜主な連携先＞ (稲作経営学科) 東北おひさま発電株式会社 (果樹経営学科) 最上さくらんぼブランド確立プロジェクト推進協議会 (野菜・花き経営学科野菜コース) 戸沢村耕畜連携推進協議会 (野菜・花き経営学科花きコース) 新庄・もがみフラワーフェスティバル実行委員会、最上農業技術普及課 (畜産経営学科) 株式会社かかはしファーム、庄内農業技術普及課 (農産加工経営学科) 最上町 (林業経営学科) 新庄神室産業高等学校</li> <li>プロジェクト発表会を1月に行ったところ、連携先からは、プロジェクトの取組みと成果に高い評価と感謝をいただき、さらなる研究の継続を依頼された。</li> </ul> <p>* プロジェクト実施により、連携先からも、取組みと成果に高い評価と感謝の意も示されていることから、「B」評価とする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域協働研究プロジェクト」については、引き続き栽培・飼育管理や農産加工技術等の強みを活かして、より一層地域の課題解決に取り組む中で、学生個々のスキルアップと卒業研究に繋げていく。</li> <li>「地域協働研究プロジェクト」の評価方法について、連携先から評価票の提出を受け、評価を行う。</li> </ul>
		<p>① 地域と連携した取組み【継続】 「新庄・もがみフラワーフェスティバル」、「山形県ホルスタイン共進会」など、農や食に関する品評会への出品や運営スタッフとしての参加を通して、地域の活性化や栽培・飼養管理技術の向上につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新庄・もがみフラワーフェスティバル(9/7)において、寄せ植え体験教室の講師役を務めることで、地域との連携を深めた。</li> <li>山形県食肉公社主催の肉フェス(10/26)にて農大産肥育牛の牛肉を販売したほか会場スタッフとして活動する中で貢献した。</li> <li>新庄市立升形小学校において、バケツ稲の栽培指導を行った。</li> </ul> <p>* 各学科により地域連携が強化されたことから「B」評価とする。</p>	B	
3	ボランティア活動への支援	<p>① 学生主体のボランティア活動への支援【継続】 学生の社会経験が、学習や進路選択に活かせるよう、学生のボランティア活動(高齢者宅の除雪作業への参加等)を支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山形県北部豪雨災害の復旧のために、学生3名が戸沢村でボランティア活動を行った。</li> <li>新庄まつりの囃子や山車の制作・運行に学生4名が加わり、まつりを盛り上げた。</li> <li>除雪ボランティア(連携先:新庄市社会福祉協議会)は、学生31名が参加し、新庄市内の2戸を除雪した。</li> </ul> <p>* 山形県北部豪雨災害の復旧ボランティアに学生3名が参加した。新庄祭りに学生4名が参加した。除雪ボランティアに学生31名が参加した。活動先から感謝や期待が寄せられることで、学生の意欲の醸成に繋がっていることから、「A」評価とする。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動は、校外の地域住民等との交流からコミュニケーション能力や社会貢献意欲の向上につながることから、来年度も、積極的に取り組んでいく。</li> </ul>
4	積極的な情報発信【新規】	<p>① 積極的な情報発信の取組み【新規】 新キャンパスでの活動が始まるので、SNS、ホームページを活用した情報発信、PRなどにも積極的に取組み、学校広報誌をホームページに新たに掲載し、学生活動の様子を一層積極的にPRし発信力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山形県や農林大学校のホームページ、農林大学校のYouTubeやInstagram、農大市場のFacebookを活用し、イベント毎に細やかに理解しやすい動画等を配信することで、新キャンパスでの活動の情報発信、PRなどに積極的に取組み、学生の活動を発信した。</li> </ul> <p>* 5つのメディアを活用し、積極的な情報発信の取組みが行われたことから、「A」評価とする。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、継続しSNSやホームページを活用した情報発信、PRなどに積極的に取組み、当校に対する理解促進を図る。</li> </ul>

自己評価	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>農業高校との交流については、高大連携会議等を通じて、計画と実績について検討・共有が進んでおり、各事業の成果に繋がっている。新たな高大連携協定を締結し、連携の強化を図った。</li> <li>地域共同研究プロジェクトは、地域振興や活性化への貢献のみならず、地域に対する愛着や誇りコミュニケーション能力向上に結び付いており、地域からの評価も高い。</li> <li>SNSやホームページを活用した情報発信、PRにより当校に対する理解が促進された。</li> </ul>	B

学校関係者評価(意見)	学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>農業高校や最上地域には素晴らしい存在感を発揮している。今後は山形県全域に情報・魅力を発信してほしい。様々な情報発信により大専、専門職大学の両校の認知度が高まっている。</li> <li>各農業高校との高大連携協定の山形大学農学部、東北農林専門職大学を含めた新たな高大連携協定の枠組みを通じ、次年度以降における高大連携の推進強化に期待する。</li> <li>高大連携や地域協働研究プロジェクトなど、地域に根差し、地域の魅力を引き出した取組みがなされている。地域協働研究プロジェクトはますます大切になる。社会情勢の激しい変化の中、地域の方々や課題解決に取り組むことは互いにWinWinの関係でよい。</li> <li>地域活動を通して、特に県外出身の学生が本県農業に向き合う動向や意向等の変化にも注視(配慮)してほしい。</li> <li>大専の進学希望者の育成を念頭に入れながら、高校農業部会との連携を強化していけるような取組みを期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知名度の向上について → 地域協働研究プロジェクト活動やホームページ、SNSでの情報発信を通じて、知名度の向上につなげていく。</li> <li>高大連携強化について → 令和6年度に県内6農業高校と専門職大学、本校の間で新たな高大連携協定が締結されたことに基づき、更なる高大連携強化のあり方を検討する。</li> <li>地域協働研究プロジェクトについて → 1年次において地域協働研究プロジェクトに取り組むことで、地域の課題を調査・研究し、課題解決につなげることで、学生の地域への理解を進めており、次年度も本プロジェクトを継続する。また、評価方法について、連携先から評価票の提出を受け、評価を行う。</li> <li>県外出身学生の本県農林業への動向や意向等について → 先進農林業者体験学習やインターンシップを通じた理解促進やマッチングにより、県外出身学生が本県農業法人や森林組合等に就職した事例が見られ、今後とも地域活動を通じて本県農林業への理解促進を図る。</li> <li>高校農業部会との連携強化について → キャンパスツアー等を積極的に開催し、農業高校生への大専の教育についての理解促進を図るなどし、高校農業部会との連携を強化を行う。</li> </ul>	B